

【2013年度「山村再生担い手づくり事例集」づくりスケジュール（予定）】

～8月25日（日）

取材先の連絡先・連絡方法確認（各地区担当者）

～9月6日（金）

取材先への連絡と取材の可否確認（事例集事務局）

9月7日（土）～9月27日（金）

取材者の募集（事例集事務局）

10月1日（火）～10月14日（火）

取材先と取材者のマッチング（事例集事務局）

取材者への連絡（取材方法と取材先の通知）（事例集事務局）

10月15日（水）～12月28日（土）

事前検討会（事例集事務局、取材者）10/15（火）19:00～ 於・豊田市職員会館第1部室
アポイントメント、聞き取り、レポート提出（取材者）

中間報告会（事例集事務局、取材者）11/26（火）19:00～ 於・豊田市職員会館第1部室

1月6日（月）～2月28日（金）

振り返り（事例集事務局、取材者）

取材先への取材内容確認（取材者）

2012年度山村再生担い手づくり事例集作成（事例集事務局）

交通費等精算（事例集事務局）

2013年度「山村再生担い手づくり事例集」取材先×取材者

取材先	取材者
根羽村森林組合、ねば杉っこ餅、根羽村猟友会	*洲崎燈子、高橋伸夫
恵南森林組合、NPO法人東濃・森林づくりの会、NPO法人福寿の里自然倶楽部	*近藤朗、蔵治光一郎、安藤里恵
NPO法人奥矢作森林塾、株式会社M-easy、旭木の駅プロジェクト	*浜口美穂、眞木宏哉
とよた森林学校+OB会、とよた都市農山村交流ネットワーク、おむすび通貨	*沖章枝、長澤壮平
矢作川水系森林ボランティア協議会、green maman、農業法人みどりの里	*蜂須賀功、後藤伸也
豊森なりわい塾、千年持続学校	<未定>
NPO法人中部猟蹄会・三州マタギ屋、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会、じさんじよの会	*井上祥一郎、丹羽健司、(西原均)

*はチームリーダー



まちとむらをつなぐ “プラットホーム”

人と人、まちといなか、
地域と企業をつなぎ、
豊かな暮らしを提案します。

おいでん・さんそんセンター

土とつながる。

人とつながる。

地域とつながる暮らし方。

豊かな一年を想う冬。

春の訪れと共に、畑に種を蒔き、

太陽の陽を浴び、野菜の収穫を喜ぶ夏。

実りの秋には、自然の恵みに感謝し収穫をー。

暮らしの中に感じる自然のリズム。

季節を感じる暮らしは心を豊かにしてくれる。

わたしたちは提案します。

街の喧騒の中においても、

ふと柔らかな空気に包まれる様な暮らし方を。

自然の営みを感じられる暮らし方を。

森に遊びに行ったり、

森づくりに関わるのも良い。

街の中でささやかな土に向かうのも良い。

週末に田舎の農園に通うのも良い。

田舎に友人を作るのも良い。

田舎の友人が作る野菜を、

いのちとしていただくのも良い。

いっそ田舎へ住んじゃおうかー

というのも良い。

それぞれの暮らしの中に、

土とつながり、

人とつながり、

地域とつながる

生き方が見つけられたら・・・

それが本当の豊かさ。

人間らしい幸せだと思っております。

一緒に、暮らしの豊かさの

種時きをしませんか。

豊田市 企画政策部 企画課

おいでん・さんそんセンター

〒444-2424 豊田市足助町宮ノ後 26-2 (足助支所 2 階)

TEL:0565-62-0610 (直通) FAX:0565-62-0614

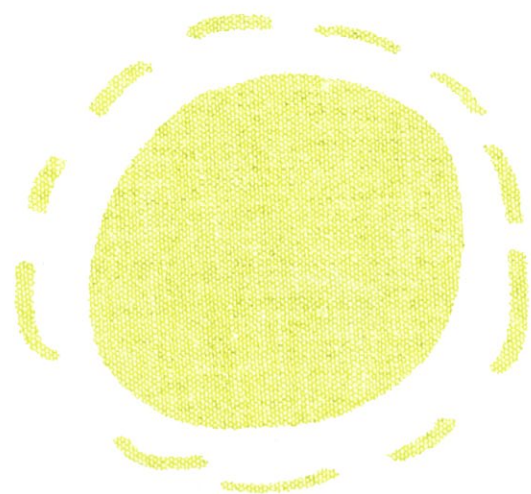
開所時間：午前8時30分～午後5時 (土日祝日・年末年始除く)

MAIL:sanson-center@city.toyota.aichi.jp

おいでん・さんそんセンター

検索





あいさつ



豊田市長
太田 稔彦

豊田市は、「くるまのまち」であるとともに「森林都市」という姿を持ち、多様な地域資源に恵まれた都市です。

こうした特長を最大限に活かすため、平成25年度から始まった第7次豊田市総合計画後期実践計画においては「暮らし満足都市」の創造に向け取り組んでいます。

この取組は、都市部と農山村部がそれぞれの強みを活かし合い弱みを補い合うことで、新しい魅力や価値を生み出し、様々なライフスタイルを選択できるまちづくりを目指すものです。

このたび立ち上げました「おいでん・さんそんセンター」は、その取組の推進に向け「まち」と「むら」をつなぎ、それぞれのニーズに応じた交流を生み出していくことを目的としています。

一つの自治体内に「まち」と「むら」があり、それぞれの魅力を体感できる豊田市ならではの取組の推進に向け、市民・地域の皆様、企業の皆様の積極的なご参加とご支援をお願い申し上げます。



センター長
鈴木 辰吉

明治維新以来続いた成長と拡大の時代が新たな転機を迎えようとしています。

科学技術がさらに進歩する一方、人口が減少し、高齢化が一気に進む新たな時代の豊かな暮らしをどう築いていくのか。

おいでん・さんそんセンターは、都市と農山村の両方の課題をひとつながりのものととらえ、住民、地域、企業、行政、NPO、専門家が共に汗を流し、これに取り組んでいく場として設立されました。

私たちがめざす未来は、都市においても農山村においても人々が暮らしに満足している社会、自然に寄り添い、誰もが一つの命として大切にされる社会です。

競い合って成長する気概を持ちつつ、支えあって豊かになる優しさを備えた「暮らし満足都市」豊田市は、全国に、そして、世界に誇れる都市になるものと確信します。

おいでん・さんそんセンターの運営体制

おいでん・さんそんセンターはみんなで支え合う組織です。



おいでん・さんそんセンターを支える仲間たち

豊森なりわい塾（豊森実行委員会）

〒461-0002 名古屋市東区代官町39-18 日本陶磁器センタービル5-D NPO法人中部リサイクル運動市民の会内 豊森事務局(NPO法人地域の未来・支援センター内)
TEL: 052-936-0511 FAX: 052-982-9089
HP: <http://www.toyomori.org/> e-mail: info@toyomori.org
実行委員長: 澁澤寿一(NPO法人樹木・環境ネットワーク協会理事長)

千年持続学校

問い合わせ先 事務局 下野智子
e-mail: noitomo@gmail.com
校長: 高野雅夫
(名古屋大学大学院環境学研究科准教授)

矢作川水系森林ボランティア協議会

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-44-17 嶋田ビル203
TEL: 090-4160-9065(矢森協)
FAX: 052-581-8161
HP: <http://www.yamorikyuu.com/>
e-mail: yamorikyuu@yahoo.co.jp 代表: 丹羽健司

とよた都市農山村交流ネットワーク

〒444-2816 豊田市杉本町三斗成1-3
TEL&FAX: 0565-62-4011
携帯電話: 090-5453-6411(山本)
HP: <http://www.toyotasanson.net/>
e-mail: sigekayo@juno.ocn.ne.jp 代表: 山本薫久

(株) M-easy

〒444-2811 豊田市太田町蟹田6番地 福蔵寺
TEL: 0565-68-3025 FAX: 050-3488-9128
blog: 「旭暮らし」 <http://asahi-gurashi.seesaa.net/>
facebookページ: 「旭暮らし」
e-mail: info@m-easy.co.jp 代表取締役社長: 戸田友介

森の健康診断

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1-44-17 嶋田ビル203
TEL: 090-4160-9065(矢森協)
FAX: 052-581-8161
HP: <http://mori-gis.org/>
e-mail: yamorikyuu@yahoo.co.jp

旭木の駅プロジェクト

〒444-2816 豊田市杉本町三斗成1-3
旭木の駅プロジェクト実行委員会
TEL: 090-4792-3440(事務局 西川)
e-mail: nosanson@hm10.aitai.ne.jp
委員長: 高山治朗

green maman

〒471-0013 豊田市高上2-24-13
TEL&FAX: 0565-89-1186
blog: 「green mamann〜ぐりーんままん〜」
<http://ameblo.jp/green-mamann/>
e-mail: ukackey@yahoo.co.jp

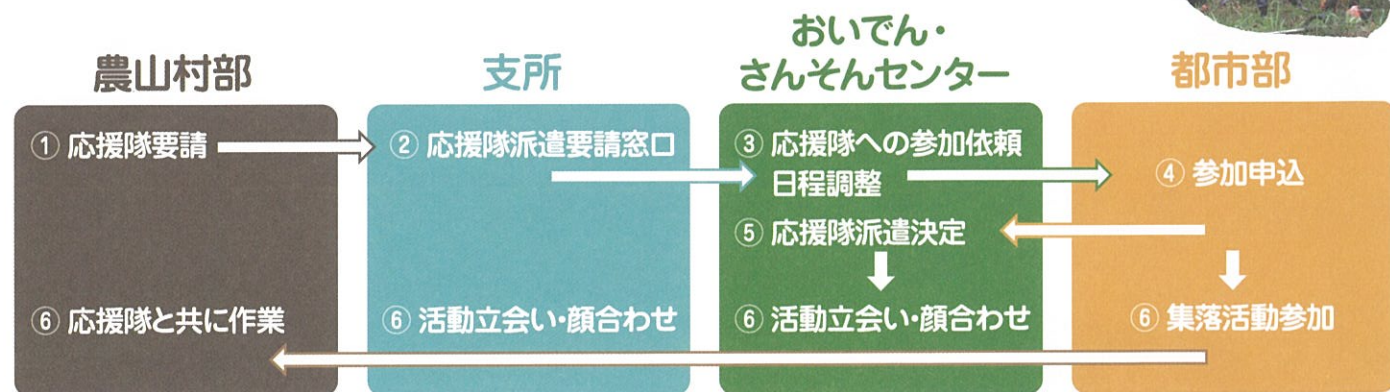
パートナーエリア協定推進モデル事業

都市部と農山村部の集落、自治区等による地域間のパートナーエリア協定や地域と企業間の協定など、全国の先進事例を調査・研究するとともに、エリア協定締結による交流モデルの提案、実施及び事業検証を行い、水平展開に向けた仕組みを構築します。



集落活動支援事業の運営

草刈や祭り準備等の集落活動を応援する都市部のボランティアの養成・登録、農山村集落の要請に応じた人員の派遣を行います。



集落活動応援隊員への申込 おいでん・さんそんセンター (0565-62-0610) へお問い合わせください。

おいでん・さんそんセンターとはー。

都市部と農山村部それぞれのひと・地域・団体・企業などを「つなぎます」

※交流事業って？…収穫体験、地域貢献活動、山里暮らしなど、皆さんのニーズのマッチングにより、最適な交流メニューを提供する事業です。

仕事に追われる日々、何でも買える代わりにお金がないと暮らしが成り立たない不安、…
それでも、“まち”には、人が集まり、活力と活気があります

ひとが減り続ける集落、荒れていく田畑、…
それでも、“むら”には、美しい自然、暮らしをつくる知恵があります

そんな“まち”と“むら”がお互いの力をお互いのために使ったら、
どちらも幸せになると思いませんか？
“まち”と“むら”をつなぐプラットフォーム、
それが、“おいでん・さんそんセンター”です

〈こんな取組をします〉

① 山里交流バンク

希望する交流種目、参加(受入)人員数などの情報を基にリスト化(データベース化)し、その内容に応じた相手先を探し、つなぎ合わせるとともに、各種活動団体と連携をしながら必要に応じてパートナーシップを構築するまで、調整を行います。

② パートナーエリア協定推進モデル事業

都市部と農山村部の集落、自治区等による地域間のパートナーエリア協定や地域と企業間の協定など、全国の先進事例を調査・研究するとともに、エリア協定締結による交流モデルの提案、実施及び事業検証を行い、水平展開に向けた仕組みを構築します。

③ 集落活動支援事業の運営

集落活動(草刈、祭り準備等)を支援する都市部のボランティア養成・登録、農山村集落の要請に応じた人員の派遣を行います。

山里交流バンク

おいでん・さんそんセンターでは、交流活動が生まれるよう、人と人、まちといなか、地域と企業とをつなぐお手伝いをします。



都市部

子ども会事業で田植え体験をさせたい！
定年して時間があるから人の役に立つことをしたい！



おいでん・さんそんセンター

最適な組み合わせをコーディネート

交流事業の実施・フォロー

農山村部

子ども達が減って、大きな活動が出来ない
荒れている里山をきれいにしたいけど人手不足



たとえば、こんな交流のかたち…

農山村地域と企業のコラボによる山林の保全・植林

過疎化・高齢化により管理のできなくなった山林を抱える農山村の集落と、地域貢献活動として環境活動の場を探している企業、結び付いたら山林や遊歩道がかつての手入れの行き届いた山に戻りました。

この活動を通じて、地域住民と企業の従業員との交流・顔見知りの関係が生まれ、集落にとっては荒れた山の整備と外部の人との交流による活性化が、企業にとっては社会貢献の成果と地域の一員として汗を流したやりがいや地域住民とのふれあいによる充実感が得られました。



まちの飲食店が棚田のオーナー

まちの飲食店が、農山村の耕作されていない棚田のオーナーになり、農作業の協力、収穫したお米の買取に協力しました。買い取ったお米は自分のお店で提供するこだわりのお米としてお客様に好評です。地域の農家も耕作放棄地が復旧、お米も売れて里山の美しい景観も取り戻せました。

最近では、飲食店のお客さんもお米づくりに参加。お店の一大イベントとして盛り上がっています。



自治区のお祭りに農産物を出店

お祭りの出店内容を充実させたい都市部の地区が、農山村部の集落に農産物の出店をお願いしました。都市部の住民にとっては、顔の見える生産者から丹精こめて作っている安心・安全でおいしい農産物が手に入り、農山村部の住民にとっても、農産物が売れ、おいしいという生の声が聞けました。

今では、毎月市を開催し、お互いのお祭りに行き来する関係になりました。



都市部と農山村部の子ども会で協働事業

子どもたちに土に触れる体験をさせたい都市部の子ども会と、子どもたちが減って大人数で遊ぶ機会のつくりえない農山村部の子ども会。農山村の田んぼを使って地域のおじいさん、おばあさんに教えてもらいながら一緒に田植え、稲刈体験をしました。

都市部の子どもたちには自然の中で自然で作物を作る体験に、農山村部の子どもたちにとっては大勢の子どもたちと遊ぶ機会に、子ども会にとっては活動の活性化に、親にとっても日頃の運動不足の解消と自然の恵みを楽しむ機会になりました。



交流までの流れ

STEP1



まずはおいでんさんそんセンターへ相談

STEP2

センターが持っている情報から最適な交流相手を選びます

STEP3

お互いのニーズにあった交流の方法を考えます

STEP4

交流事業の実施

場合によってはNPO等活動団体が協力します

実施・フォロー